

[論 文]

孫からみた祖父母

－祖父母との交流と祖父母機能－

Grandchildren's relationships with their grandparents

柴 田 雄 企

Shibata Yuki

ABSTRACT

The purpose of this study is to investigate grandchildren's relationships with their grandparents. A questionnaire was administered to 76 female junior college students. They answered about shared experiences with their own living grandparents and the grandparental functions ("acceptance of existence", "daily emotional support", "time perspectives", and "succession of generations") perceived by grandchildren. As a result, female junior college students were shown to have more shared experiences with their grandmother than with their grandfather. And there is a correlation between grandmother's functions and shared experiences with their grandmother.

Key words: grandchildren, grandparents, female junior college students, grandparental functions, shared experience

問題と目的

現代日本では少子高齢化、家族の多様化が進んでいると言われている。そして、祖父母と孫の関係も変化してきているとも言われている。

祖父母と孫の同居についてみると、平成27年版高齢社会白書によると、「65歳以上の高齢者のいる世帯について世帯構造別の構成割合でみると、三世代世帯は減少傾向」にある。また、1980年では、世帯構造の中で、三世代世帯が全体の50.1%を占めていたが、徐々に減少し、2013年では13.2%となっている。

高齢者が考える、子どもや孫との付き合い方については、「いつも一緒に生活できるのがよい」という回答が、1995年では54.2%であったが、2010年には33.1%に減少している。一方で、「ときどき会って食事や会話をするのがよい」という回答は、1995年の38.0%から、2010年の46.8%へと増加している（内閣府、2010）。このように祖父母側の孫との関わりについての考え方は変化してきていると言える。

孫にとって祖父母はどのような存在なのだろうか。田畑ら（1996）は、「孫－祖父母関係評価尺度」を作成し、中学生188名、高校生176名、大学生181名を対象に調査を行った。

その結果、祖父母は、孫と孫の親の関係を調整するなど、孫にとって、両親からの保護的な場となり、それが孫の安心につながるようであると述べている。

前原ら（2000）は、沖縄の高校1年生を対象に、祖父母と孫の関係について、質問紙調査を行っている。そして、孫が意味づける祖父母の機能として、「伝統文化伝承機能」、「安全基地機能」、「人生観・死生観促進機能」の3つの因子を抽出している。

また、Roberto & Stroes（1992）によると、孫は祖父母から様々な価値を学んでいるという。また、祖父母の老年期の姿を提示されることは、孫が未来の自己を考えるきっかけになるとされている（Kivnick, 1983）。孫にとって祖父母の存在は特別な意味を持つ場合があるといえる。

そこで、本研究では、孫は祖父母とどのような交流をしているのか、孫から見て祖父母はどのような存在であるのか（祖父母の機能）について調査し、祖父母との共有経験と祖父母機能との関連について検討することにした。

方 法

2007年11月に質問紙調査を行った。短期大学女子学生76名（平均年齢18.63歳）を分析対象とした。祖父についての回答は59名から、祖母についての回答は74名から得られた。

質問紙の内容は以下の通りである。

(1)孫－祖父母関係評価尺度（孫版）

孫から見た祖父母の機能を捉えるため、田畑ら（1996）による、孫－祖父母関係評価尺度（孫版）を用いた。この尺度は「存在受容機能」、「日常的、情緒的援助機能」、「時間的展望促進機能」、「世代継承促進機能」の4因子から成る。「存在受容機能」は「つらいことがあるとき、祖父（祖母）を思うと気持ちが慰められることがある」などの8項目から成る。「日常的、情緒的援助機能」は「祖父（祖母）は、わたしに興味や関心をもっていてくれる」などの6項目から成る。「時間的展望促進機能」は「祖父（祖母）の姿から、人の一生について、積極的に考えてみることもある」などの8項目がある。「世代継承促進機能」は「祖父（祖母）の姿から、親は祖父（祖母）に似ているなあと実感する」など4項目がある。各項目に「はい（2）」、「どちらでもない（1）」、「いいえ（0）」で回答を求めた。得点が高いほど、孫からみた祖父母機能が高いと解釈される。

(2)祖父母との交流

祖父母との交流について、以下の5項目について尋ねた。

①同別居

祖父母とどのくらいの距離のところに住んでいるのか、所要時間を尋ねた。選択肢は以下の通り。「一緒に住んでいる」、「同じ敷地内に住んでいる」、「近くに住んでいる（徒歩で5分程度）」、「所要時間15分未満」、「所要時間15～59分」、「所要時間1時間以上」。

②会う頻度

祖父母とどのくらいの頻度で会っているのかを尋ねた。選択肢は以下の通りであった。「ほぼ毎日」、「週に1～2回」、「月に1～2回」、「半年に1～2回」、「年に1～2回」、「ほとんどない」。

また、祖父母と会う頻度が小学生の頃と比べて、変化したか選択してもらった（「小学

生の頃より減った」、「小学生の頃と変わらない」、「小学生の頃より増えた」。

③コミュニケーションの方法

祖父母とどうやってコミュニケーションしているのか、その方法を回答してもらった。選択肢は以下の通り。「直接会って話す」、「電話で話す」、「手紙を書く」、「メールのやりとりをする」。

④会話の頻度

祖父母とどのくらい会話をしているのか尋ねた。選択肢は以下の通り。「ほぼ毎日」、「週に1～2回」、「月に1～2回」、「半年に1～2回」、「年に1～2回」、「ほとんどない」。

⑤共有経験

祖父母とどのような交流をしてきたのかについて、小学生の頃と現在のそれぞれについて回答を求めた。項目は以下の通り。「二人で会話をする」、「買い物に出かける」、「誕生日などにプレゼントを贈る」、「誕生日などにプレゼントをもらう」、「旅行に行く」、「食事に行く」。

結 果

1. 孫から見た祖父母の機能

孫－祖父母関係評価尺度（孫版）への回答の結果を表1に示した。

表1 孫－祖父母関係評価尺度（孫版）の平均値と標準偏差

	祖父	祖母
存在受容機能	6.56 (3.83)	8.71 (4.52)
日常的、情緒的援助機能	7.29 (3.14)	9.20 (2.34)
時間的展望促進機能	7.92 (4.26)	10.11 (4.51)
世代継承性促進機能	3.88 (2.31)	4.55 (2.20)

2. 祖父母との交流

(1)同別居

祖父母との同別居についての回答を表2に示した。祖父母と同居している者より別居している者の方が多かった。

表2 祖父母との同別居

	祖父 (n=51)	祖母 (n=71)
一緒に住んでいる	9 (17.6%)	14 (19.7%)
同じ敷地内に住んでいる	5 (9.8%)	9 (12.7%)
近くに住んでいる (5分程度)	3 (5.9%)	7 (9.9%)
所要時間15分未満	3 (5.9%)	5 (7.0%)
所要時間15～59分	14 (27.5%)	14 (19.7%)
所要時間1時間以上	17 (33.3%)	22 (31.0%)

(2)会う頻度

祖父母と会う頻度についての結果を表3に示した。また、小学生の頃と比べて、会う頻度が増えたかを尋ねた結果を表4に示した。小学生の頃と現在の比較では、会う頻度が減ったと回答した者が約6割であった。

表3 祖父母と会う頻度

	祖父 (n=57)	祖母 (n=72)
ほぼ毎日	13 (22.8%)	18 (25.0%)
週に1～2回	4 (7.0%)	7 (9.7%)
月に1～2回	11 (19.3%)	18 (25.0%)
半年に1～2回	20 (35.1%)	22 (30.6%)
年に1～2回	8 (14.0%)	6 (8.3%)
ほとんどない	1 (1.8%)	1 (1.4%)

表4 祖父母と会う頻度の変化

	祖父 (n=57)	祖母 (n=71)
小学生の頃より減った	39 (68.4%)	43 (60.6%)
小学生の頃と変わらない	14 (24.6%)	22 (31.0%)
小学生の頃より増えた	4 (7.0%)	6 (8.5%)

(3)コミュニケーション方法

祖父母とのコミュニケーション方法についての回答結果を表5に示した。直接、会って話をする者がほとんどであった。

表5 祖父母とのコミュニケーション方法

	祖父 (n=57)	祖母 (n=69)
直接、会って話す	55 (96.5%)	61 (88.4%)
電話で話す	2 (3.5%)	5 (7.2%)
手紙を書く	0 (0.0%)	1 (1.4%)
メール	0 (0.0%)	2 (2.9%)

(4)会話頻度

祖父母との会話の頻度についての結果を表6に示した。会話の頻度は、会う頻度と同様の結果であった。

表6 祖父母との会話の頻度

	祖父 (n=57)	祖母 (n=71)
ほぼ毎日	12 (21.1%)	17 (23.9%)
週に1～2回	5 (8.8%)	7 (9.9%)
月に1～2回	12 (21.1%)	21 (29.6%)
半年に1～2回	19 (33.3%)	20 (28.2%)
年に1～2回	6 (10.5%)	5 (7.0%)
ほとんどない	3 (5.3%)	1 (1.4%)

(5)共有経験

小学生の頃と現在のそれぞれについて、祖父母と一緒に経験したことを尋ねた結果を表7に示した。全体的に、祖父より祖母の方が一緒にしたことがあるという者の割合が高かった。小学生の頃と現在を比較すると、会話ではほとんど変化が見られなかったが、その他の項目では減少していた。特に、祖父母と買い物に行くこと、祖父母と旅行に行くことが減少していた。

表7 祖父母との共有経験がある者の割合

	祖父 (n=57)		祖母 (n=72)	
	小学生	現在	小学生	現在
会話	43 (75.4%)	43 (75.4%)	62 (86.1%)	64 (88.9%)
買い物	24 (42.1%)	7 (12.3%)	40 (55.6%)	24 (33.3%)
プレゼントを贈る	15 (26.3%)	10 (17.5%)	28 (38.9%)	23 (31.9%)
プレゼントをもらう	18 (31.6%)	11 (19.3%)	38 (52.8%)	26 (36.1%)
旅行	13 (22.8%)	5 (8.8%)	24 (33.3%)	5 (6.9%)
食事	26 (34.2%)	16 (28.1%)	42 (58.3%)	31 (43.1%)

3. 祖父母との共有経験と孫から見た祖父母機能の関連

(1)祖父の場合

小学生の時および現在の祖父との共有経験と、孫から見た祖父の機能との相関係数を求めた(表8)。

小学生の時の祖父との「会話」、「買い物」と「日常的、情緒的援助機能」とに正の相関がみられた。また、「プレゼントを贈る」と「時間的展望促進機能」および「世代継承性促進機能」とに正の相関がみられた。

現在の祖父との共有経験では、「プレゼントを贈る」と「日常的、情緒的援助機能」とに正の相関がみられた。

(2)祖母の場合

祖母についても同様に、祖母との共有経験と祖母の機能の相関係数を求めた(表9)。

小学生の時の共有経験についてみると、「買い物」と「存在受容機能」に、また、「プレゼントを贈る」と「存在受容機能」および「時間的展望促進機能」に正の相関がみられた。また、「プレゼントをもらう」と「時間的展望促進機能」に正の相関がみられた。

現在の共有経験では、「会話」と「存在受容機能」および「日常的、情緒的援助機能」に正の相関がみられた。「買い物」とすべての機能に、また、「プレゼントを贈る」と「存在受容機能」、「日常的、情緒的援助機能」、「時間的展望促進機能」に正の相関がみられた。「プレゼントをもらう」と「時間的展望促進機能」との間にも正の相関がみられた。

表8 祖父との共有経験と祖父機能との相関

		孫からみた祖父の機能			
		存在受容機能	日常的、情緒的援助機能	時間的展望促進機能	世代継承性促進機能
小学生の時	会話	.26	.33 *	.23	.19
	買い物	.25	.26 *	.17	.24
	プレゼントを贈る	.24	.26	.34 **	.32 **
	プレゼントをもらう	.08	.15	.18	.06
	旅行	.02	.25	.02	.11
	食事	.18	.25	.18	.21
現在	会話	.21	.17	.19	.07
	買い物	.12	.16	.20	.18
	プレゼントを贈る	.22	.30 *	.25	.16
	プレゼントをもらう	-.02	.12	.08	.02
	旅行	.01	.22	.16	.18
	食事	.15	.17	.08	.21

** p < .01, * p < .05

表9 祖母との共有経験と祖母機能との相関

		孫からみた祖母の機能			
		存在受容機能	日常的、情緒的援助機能	時間的展望促進機能	世代継承性促進機能
小学生の時	会話	.18	.15	.10	.02
	買い物	.25 *	.19	.18	.23
	プレゼントを贈る	.25 *	.22	.32 **	.10
	プレゼントをもらう	.21	.19	.29 *	.14
	旅行	.03	.01	-.07	.05
	食事	.05	.06	.10	.05
現在	会話	.25 *	.25 *	.05	.07
	買い物	.39 **	.35 **	.36 **	.35 **
	プレゼントを贈る	.37 **	.31 **	.40 **	.19
	プレゼントをもらう	.13	.22	.29 *	.20
	旅行	-.03	.12	-.03	.13
	食事	.15	.21	.18	.08

** p < .01, * p < .05

考察

1. 孫からみた祖父母の機能

いずれの祖父母機能についても、祖父より祖母の方が評定値が高かった。これは本研究の対象者が女性であることが影響していると考えられる。

4つの祖父母機能の中では、祖父と祖母のいずれにおいても「日常的、情緒的援助機能」が最も高かった(表1)。孫は、祖父母が自分に関心を持っていることをよく感じとっていることがうかがえる。この機能には、大目にみる寛容さも含まれている。祖父母は子育ての義務から解放され、孫と喜びを純粋に享受し得る(田畑ら, 1996)ことも、この結果に影響していると考えられる。

2. 祖父母との交流

(1) 会う頻度と会話の頻度

祖父母と会う頻度は、小学生の頃より減ったと回答した対象者が約6割であった(表4)。会う頻度が減った理由としては、孫である短期大学生の側から祖父母に接触する機会が減ったことと、祖父母側からの接触が減ったことの両方の可能性が考えられる。高齢者の年齢は、孫との接触頻度を予測する要因であることが指摘されており(Clark & Roberts, 2004 山田訳2009)、本研究の結果と一致している。

会話の頻度も会う頻度と同様の結果であった。これは祖父母とのコミュニケーション方法として、“直接、会って話す”者が多かった(表5)ことが関連していると考えられる。

(2) 共有経験

杉井(2006)は年齢が低いほど祖父母と一緒にする体験が多いことを報告している。本研究でも、小学生の頃と比べて、短期大学生となった現在では交流が減少しており、杉井(2006)と同様の結果であった。

3. 祖父母との共有経験と祖父母機能の関連

祖父母との共有経験と祖父母機能の関連について検討した。結果、小学生の時の共有経験と祖父母機能との相関については、祖父と祖母の違いはあまりみられなかった。一方、現在の共有経験と祖父母機能との相関では、祖父においてはほとんど相関がみられなかったのに対し、祖母においては、一緒に買い物に出かけたり、誕生日などにプレゼントしたりすることと、祖母の機能を感じ取ることに相関がみられた(表8、表9)。女性にとって、一緒に買い物に出かけるということは、品物について話し合い、楽しみを共有しやすい経験であると思われる。また、女性である孫にとっては、祖母は将来の自分のモデルとして捉えやすいと考えられる。これらのことが結果に影響したと推察される。

また、プレゼントを贈ることと祖母の機能に関連がみられたのは、祖母の機能を意識している者ほど、祖母にプレゼントを贈りたくなるためではないかと考えられる。

引用文献

- Clark, L., & Roberts, C. (2004) The meaning of grandparentfood, and its contribution to the quality of life of older people. In A. Walker & C. H. Hennesey (Eds.), *Growing older: Quality of life*. New York: Open University Press. pp. 188-208.
- (クラーク, L., ロバーツ, C. 山田三知子 (訳) (2009). 祖父母性の意味と高齢者のQOL ウォーカー, A., ヘネシー, C. H. (編著) 山田三知子 (訳) 高齢期における生活の質の探求—イギリス高齢者の実相— ミネルヴァ書房 pp.191-210.)
- 内閣府 2010 平成22年度 第7回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査結果
- 内閣府 2015 平成27年版 高齢社会白書
- 田畑治・星野和実・佐藤朗子・坪井さとみ・橋本剛・遠藤英俊 1996 青年期における孫・祖父母関係評価尺度の作成 心理学研究, 67 (5), 375-381
- Kivnick, H. Q. 1983 Dimensions of grandparenthood meaning: Ductuctive conceptualization and empirical derivation. *Journal and Personality and Social Psychology*, 44, 1065-1068
- Roberto, K. A., & Stroes, J. 1992 Grandchildren and grandparents : Roles, influence, and relationships. *International Journal of Aging and Human Development*, 34, 227-239
- 前原武子・金城育子・稲谷ふみ枝 2000 続柄の違う祖父母と孫の関係 教育心理学研究, 48, 120-127
- 杉井潤子 2006 祖父母と孫との世代間関係—孫の年齢による関係性の変化— 奈良教育大学紀要 (人文・社会科学), 55 (1), 177-190

付 記

本研究の調査にご協力いただきました皆様に深謝いたします。データの収集にあたっては、古庄由佳さん（大分県立芸術文化短期大学2007年度卒業）にご協力をいただきました。記して感謝いたします。